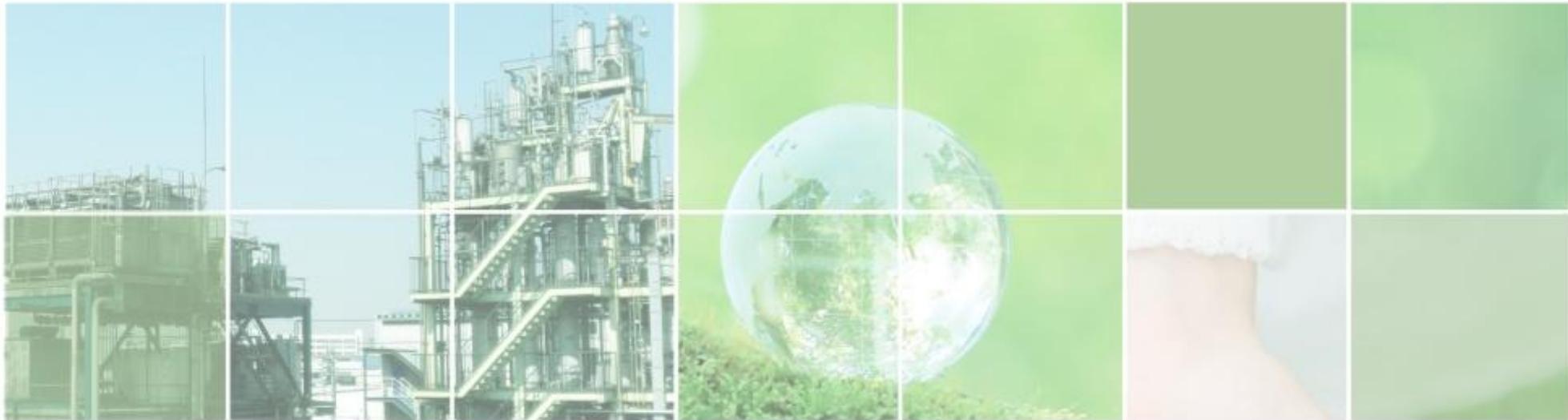


三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場
証券コード：4125

2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

2026年2月13日



2026年3月期 第3四半期 決算概要



2026年3月期 第3四半期累計



事業環境

- AI関連等の一部半導体業界は活況も、コモディティグレード半導体業界の回復は低調
- EVは長期的には普及していくとみられているものの、足元の成長は大幅に鈍化
- インフレによる原材料価格・エネルギー価格・人件費等の高騰によりコスト負担は高止まり

内部対応

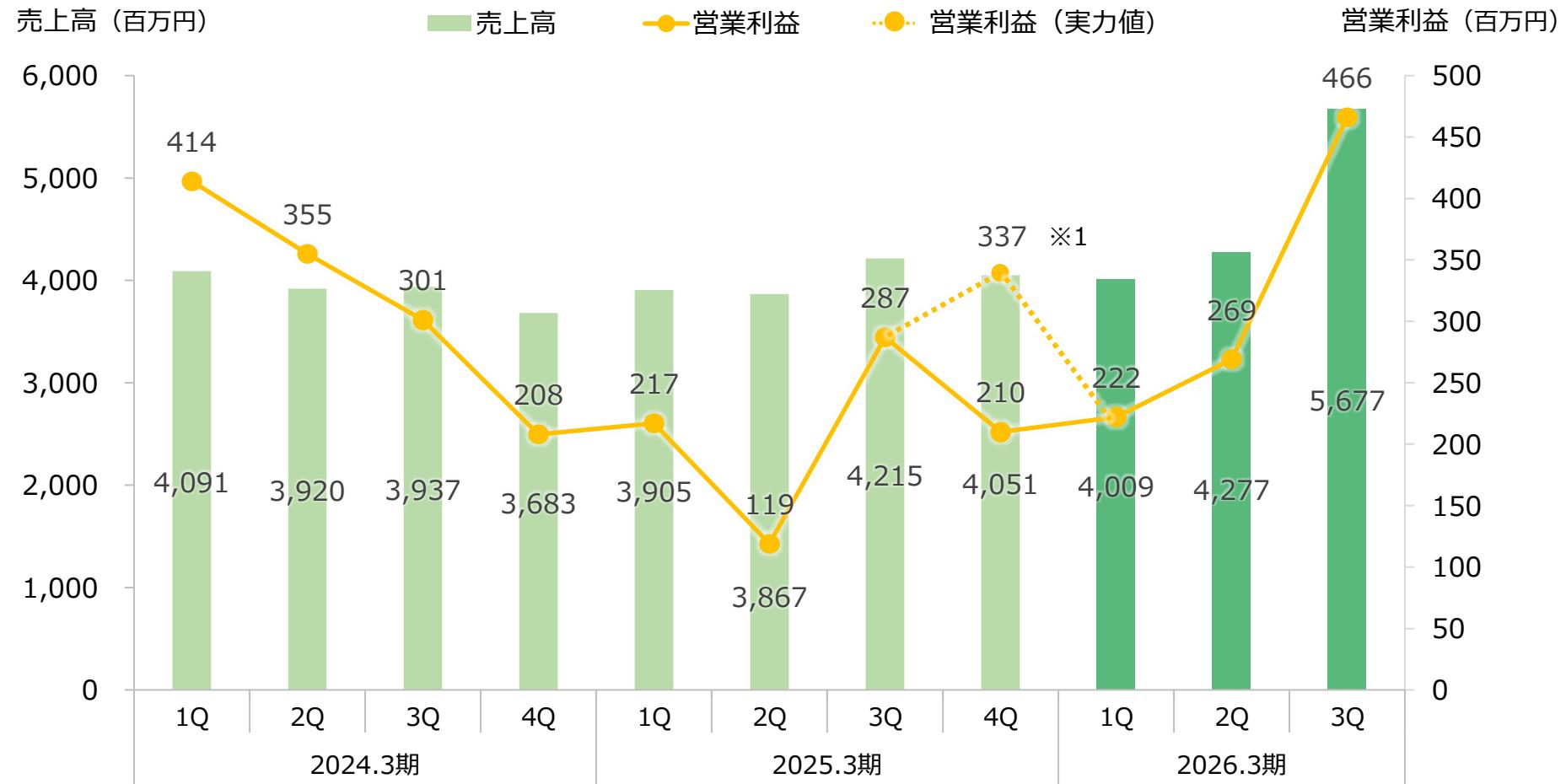
- レアメタル等の国内資源循環ニーズに応えるため、金属リサイクル会社A&H Japan株式会社を子会社化
- 化学プラントの解体・清掃・残液処理等にワンストップで対応できる体制の構築
- 再資源化による付加価値を拡大するための設備投資・研究開発投資を継続実施

⇒金属再資源化によるリユース事業拡大およびエンジニアリング事業の伸長により売上増加
中期経営計画達成にむけた工場建設等の大型投資は計画通り進行中

- リサイクル事業は堅調に推移しており、リユース・エンジニアリング事業の伸長により増収
- 工程改善活動による効果の継続、金属販売単価上昇の影響等により利益率を改善

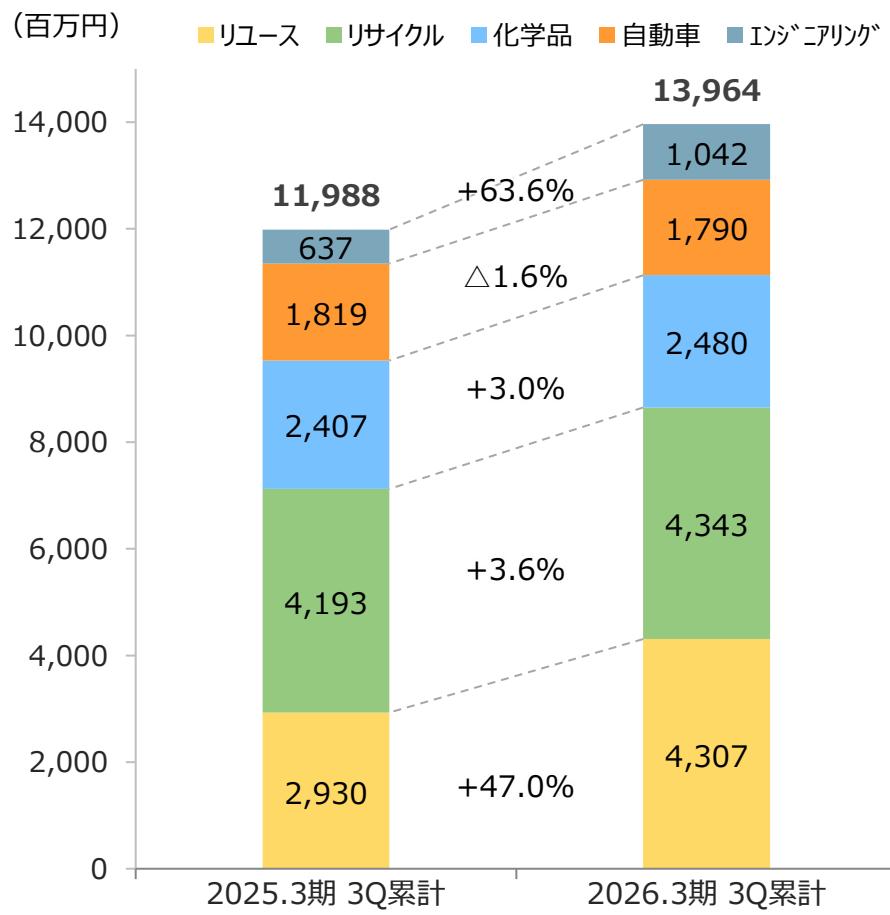
(単位：百万円)	2025年3月期 3Q累計		2026年3月期 3Q累計		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	前期比
売上高	11,988	100.0%	13,964	100.0%	+1,975	+16.5%
売上総利益	3,311	27.6%	4,044	29.0%	+733	+22.1%
営業利益	625	5.2%	958	6.9%	+333	+53.3%
経常利益	694	5.8%	1,069	7.7%	+374	+53.9%
親会社株主に帰属する 第3四半期純利益	454	3.8%	694	5.0%	+240	+52.8%

- 企業結合等による**再資源化事業の拡大**および**PCB処理案件の需要増**により収益力は大きく伸長
- 投資コストは増加しているものの、**原価改善・金属販売単価上昇**により**営業利益**は大幅改善

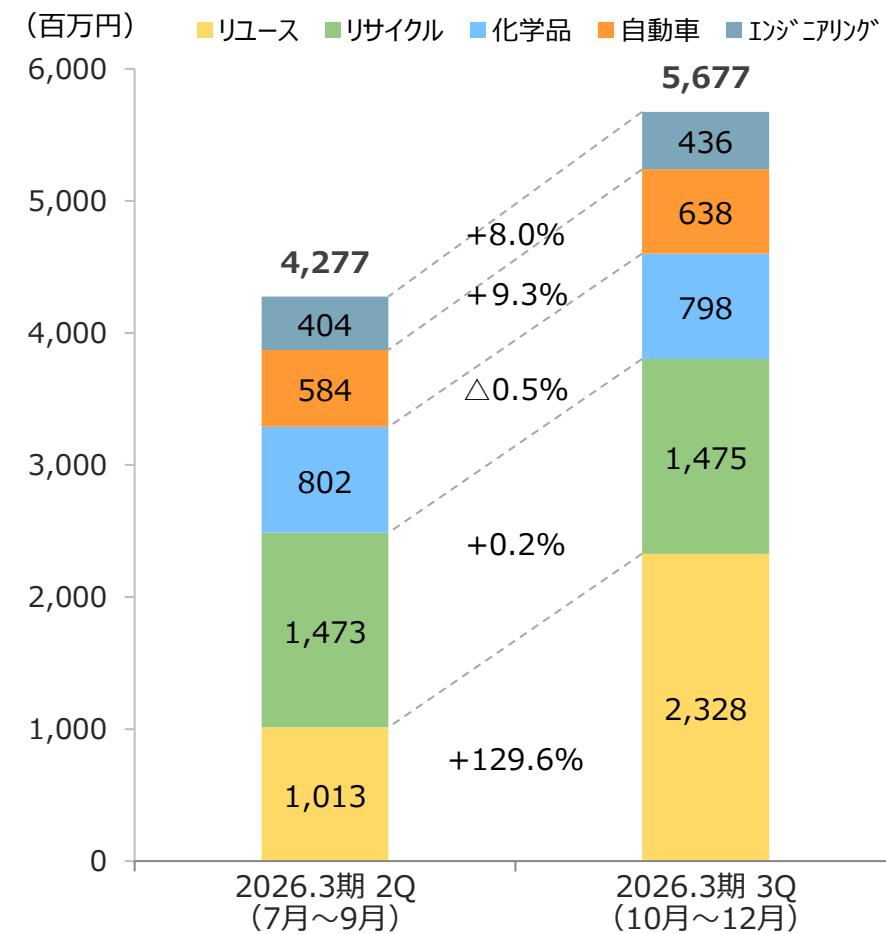


- リユース事業は企業結合により大幅拡大、化学品事業は事業環境が好転せず停滞
- エンジニアリング事業は大型解体工事の着手は遅れたものの、PCB処理案件等で大幅リカバリー

前年同期比 (YoY)



前四半期比 (QoQ)



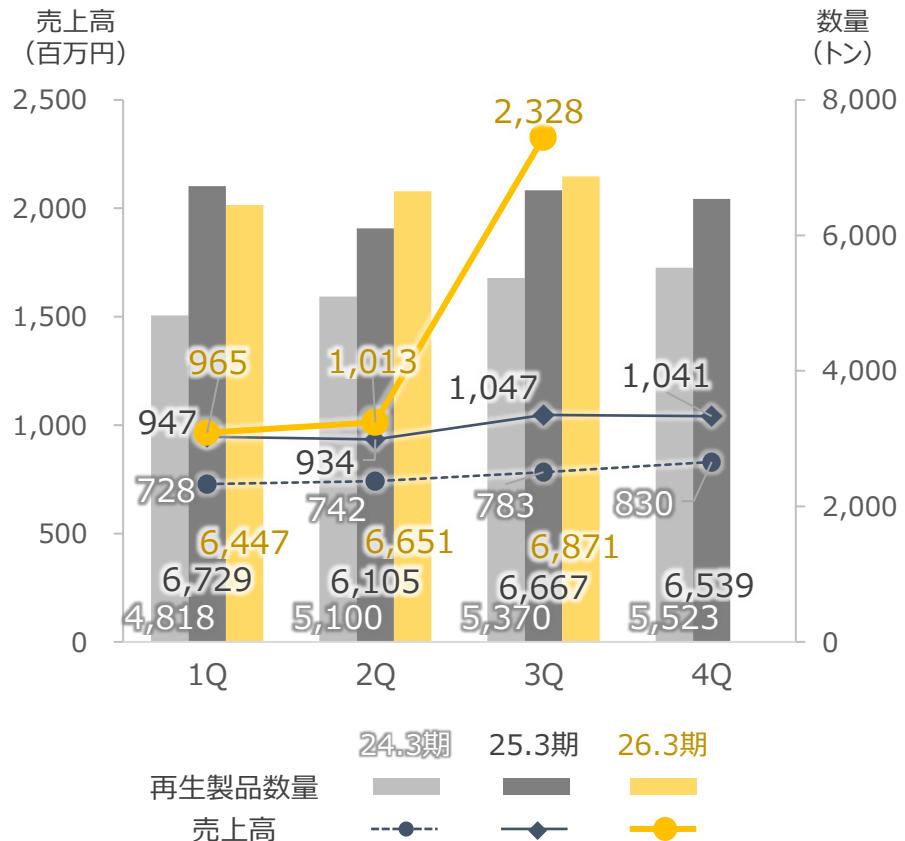


リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）

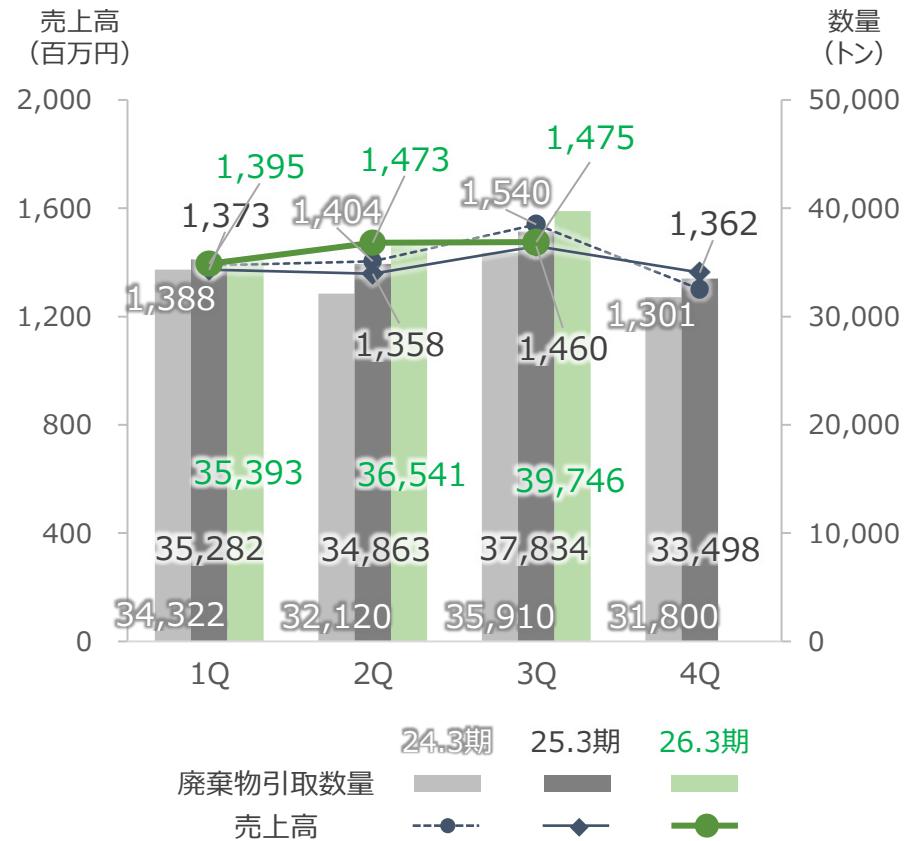
三和油化工業株式会社



リユース事業



リサイクル事業



■リユース事業売上と再生製品販売数量

- 溶剤再生製品は単価は横ばいだが数量増加により売上拡大
- M&Aによる金属事業が拡大し、売上が大幅増

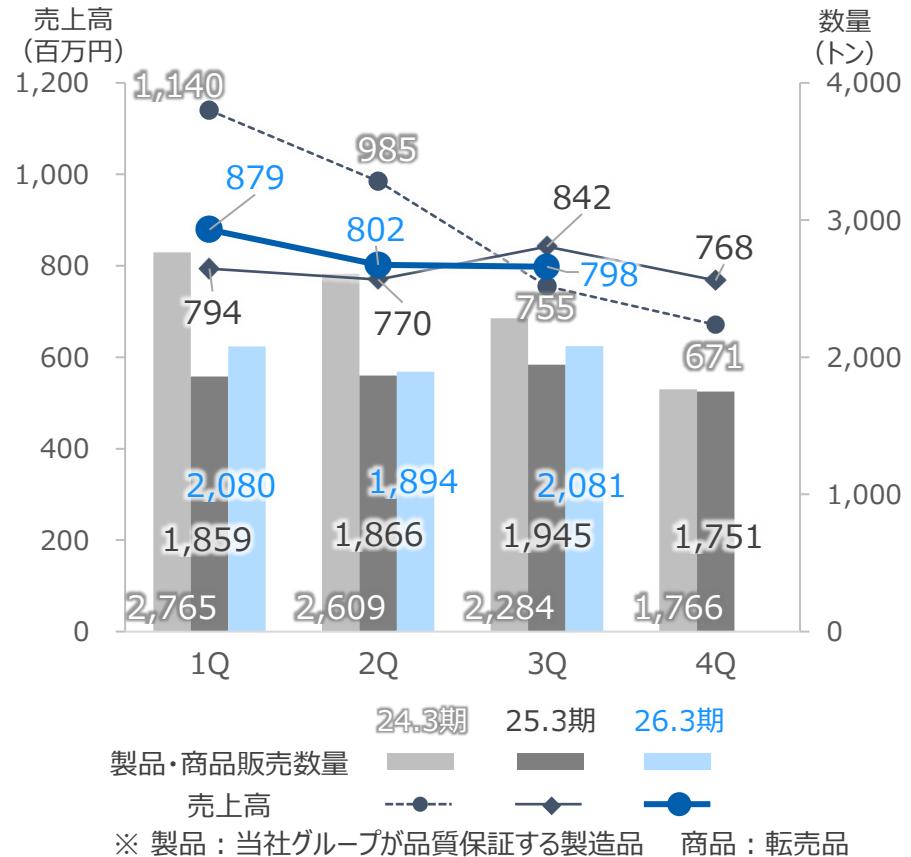
■リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 廃棄物由来燃料の引合増により再生燃料の好調な販売を維持
- 競争環境や市場環境の変化により処理物引取単価が弱含み

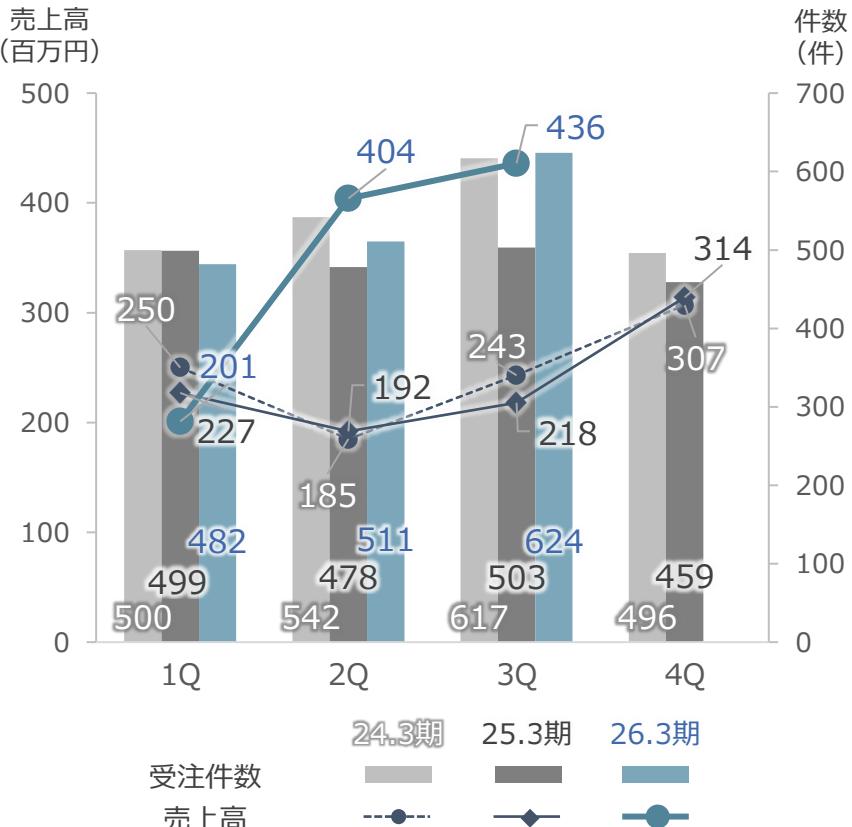
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品事業



エンジニアリング事業



■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 半導体コモディティ分野の回復遅れによりファインケミカル製品は不調
- 電池業界の成長鈍化により主力製品の先行きは不透明

■ エンジニアリング事業売上と受注件数

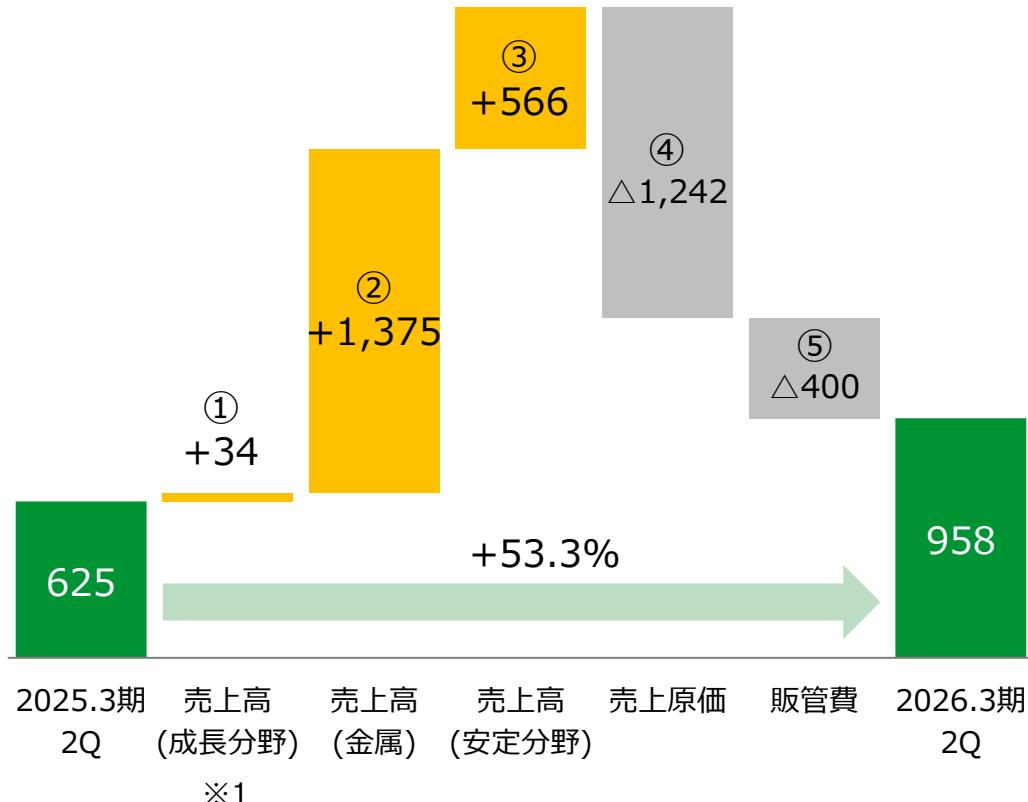
- PCB案件の引合増加で件数・売上の拡大(処理期限が来年度中)
- 解体・作業案件も着実に案件数を増加させ売上拡大

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前年同期比）

- 成長分野向け売上高は伸び悩んだものの、**金属再資源化・エンジニアリング事業**でリカバリー
- M&Aにかかる仲介・デューデリジェンス費用が発生したものの、**一過性につき次年度からは増益の見込**

(百万円)



※1 当社が注力している、半導体・電池・電子部品業界向け製品
および解体・清掃等の作業代の売上高

① 売上高 (成長分野)

〈+〉【化】電池業界向け**バインダー**の販売数量増加

② 売上高 (金属)

〈+〉【RU】企業結合による**取扱い増加**および**相場上昇**

③ 売上高 (安定分野)

〈+〉【I】**PCB処理**案件の駆込み需要の増加

④ 売上原価

変動費

〈-〉企業結合による**金属原料の仕入増加**

固定費

〈-〉投資設備の稼働開始による**減価償却費**増加

⑤ 販管費

〈-〉人員増による**人件費**増加

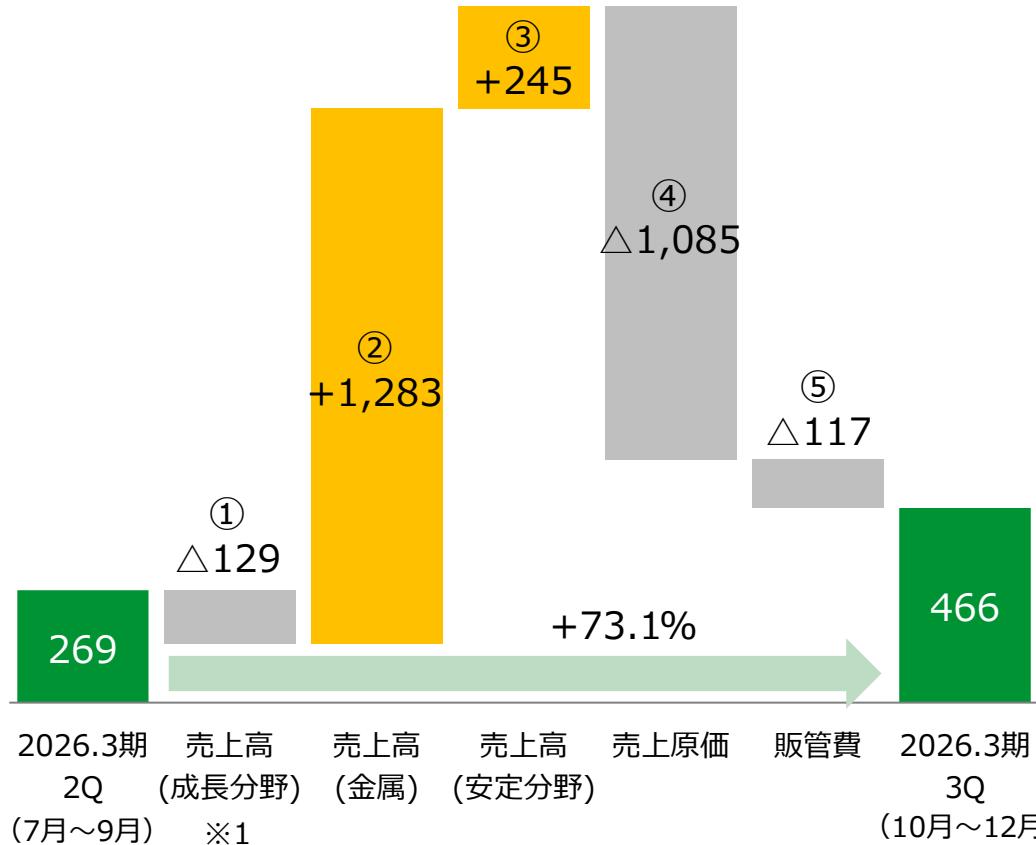
〈-〉M&Aの**仲介**、**デューデリジェンス費用**が発生

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【化】化学品、【I】エンジニアリング

- ファインケミカル品販売は伸び悩んだものの、**金属再資源化によりリユース事業が大幅拡大**
- 工程改善等の**コスト圧縮**は継続的に実施し**費用増加を抑制**

(百万円)



※1 当社が注力している、半導体・電池・電子部品業界向け製品
および解体・清掃等の作業代の売上高

① 売上高 (成長分野)

〈-〉【化】ファインケミカル品販売の伸び悩み

② 売上高 (金属)

〈+〉【RU】企業結合による取扱い増加および相場上昇

③ 売上高 (安定分野)

〈+〉【自】洗浄剤等の販売数量増加

④ 売上原価

変動費

〈-〉企業結合による金属原料の仕入増加

固定費

〈-〉冬季賞与支給増による賃金上昇

⑤ 販管費

〈-〉冬季賞与支給増による人件費上昇

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【化】化学品、【自】自動車

貸借対照表

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期3Q末	前期比 増減額	コメント
流動資産	6,077	7,446	+1,369	企業結合により、営業債権・棚卸資産等が増加
固定資産	14,559	18,111	+3,552	工場建設により、建設仮勘定等が増加
資産合計	20,636	25,558	+4,921	
流動負債	4,174	5,090	+915	企業結合により、営業債務・1年内有利子負債等が増加
固定負債	3,949	7,303	+3,354	資金調達により、長期借入金等が増加
負債合計	8,123	12,393	+4,270	
純資産合計	12,513	13,164	+651	利益獲得により、利益剰余金が増加
負債・純資産合計	20,636	25,558	+4,921	



2026年3月期 業績予想



- 金属相場上昇の影響によるリユース事業伸長等により、売上高および利益計画を上方修正
- のれん・無形資産の償却およびM&Aに要した費用（当期のみ）発生により利益は一部圧縮

		期初業績予想	2025.11.11 修正業績予想 (①)	2026.3期3Q 実績 (②)	進捗率 (②/①)	2026.2.13 修正業績予想 (③)	増減 (③-①)
売上高	リユース	4,300	6,000	4,307	71.8%	7,400	1,400
	リサイクル	5,800	5,750	4,343	75.5%	5,750	±0
	化学品	3,300	3,350	2,480	74.0%	3,200	△150
	自動車	2,400	2,350	1,790	76.2%	2,350	±0
	エンジニアリング	1,200	1,250	1,042	83.4%	1,300	+50
売上高 計		17,000	18,700	13,964	74.7%	20,000	+1,300
営業利益		1,000	1,100	958	87.1%	1,300	+200
経常利益		1,060	1,200	1,069	89.1%	1,420	+220
親会社株主に帰属する当期純利益		740	830	694	83.6%	950	+120

サンワマテリアルソリューションズ株式会社

成長が見込まれる半導体関連企業等の**産業廃棄物**を
マテリアルリサイクルする工場を北九州市に建設中

投資額 約80億円（うち最大18億円の補助金）

稼働予定 2027年4月

売上計画 2027年度：約12億円

A&H Japan株式会社の完全子会社化

エレクトロニクス分野で利用される**貴金属・レアメタル等の資源循環ニーズ**に対応するため、
大阪市のA&H Japan株式会社を完全子会社化

投資額 7億円（株式譲渡金額のみ）

売上計画 2025年度：約25億円(6ヶ月間)

償却費 のれん・無形資産：約38百万円(6ヶ月間)

※別途、シナジーを活かした生産設備増設を計画中

再資源化による付加価値を拡大するための研究開発

新しい分離・精製技術により、焼却処理されている**廃棄物等を再生品原料として有効利用し、付加価値を拡大するための試験装置**を家下工場（愛知県）に設置

投資額 約3億円（4設備）

稼働予定 2025年度（一部試験装置は未稼働）

その他

■ 混合エマルジョン化設備増設（愛知県）

投資額 約11億円

稼働予定 2027年度下期

※フル稼働時には、約5億円の増収を計画

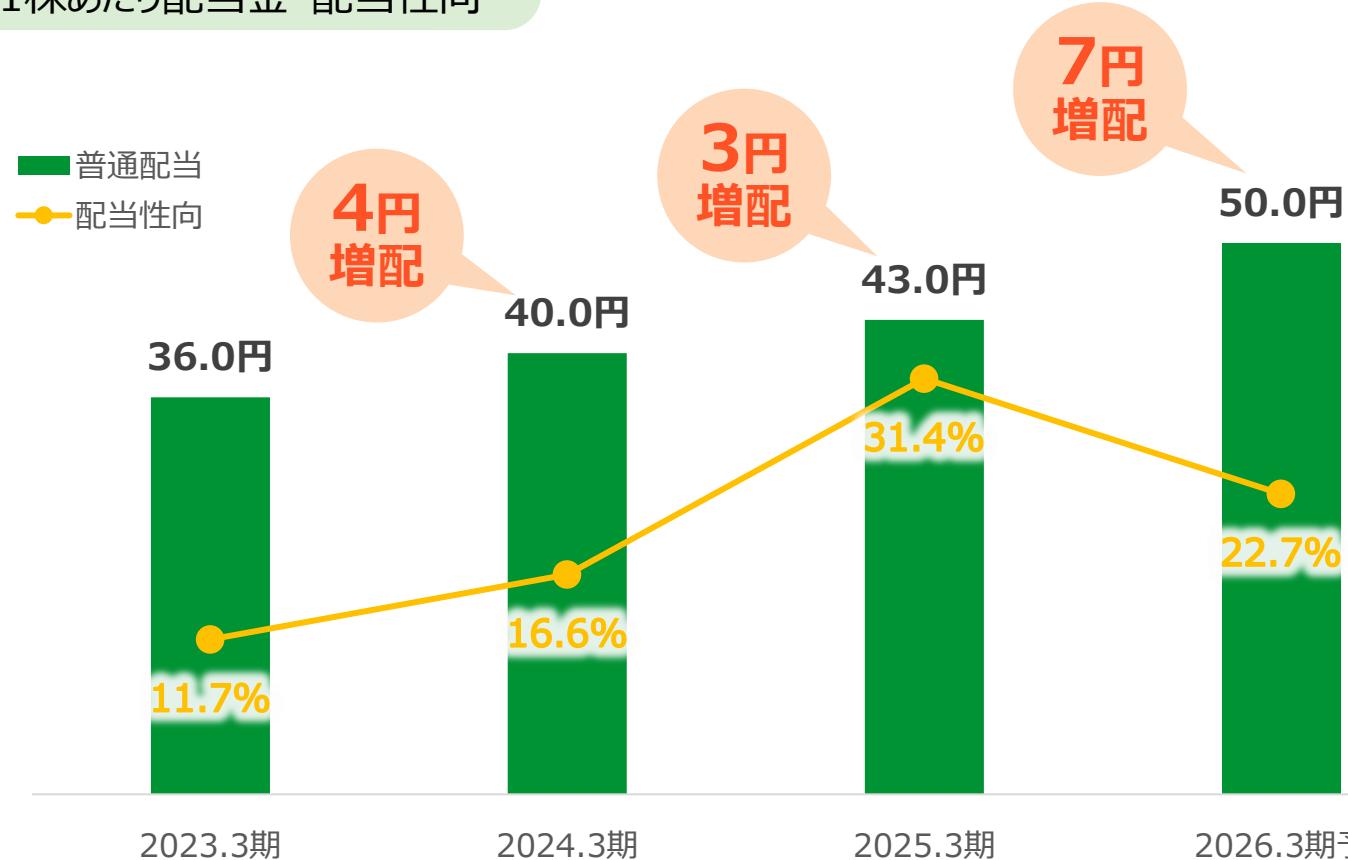
■ 資本効率の改善投資

収益性・採算性の低い設備をスクラップ＆ビルド

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、
非減配を基本方針とし、安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021 (経営管理部)

URL <https://www.sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。